



2022 年 3 月 1 日 発行  
(通巻 492 号) 定価 100 円

## 現代座レポート No. 89

- ・お人形わくわくシアター (1)
- ・2021 年度 NPO 現代座活動報告 (2-3)
- ・「われらいずこより来たる」(1964 年) 木村快 (4-6)
- ・誰でもできる朗読教室 長谷川葉月 (7)
- ・7 月公演予定 会館日誌 会員入会・継続・寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987



【little ★銀河 (リトルギンガ)】  
宮沢賢治作「双子の星」

生のピアノ演奏と歌、紙芝居やパペットを盛り込んだ劇あそびシアター。  
現代座に事務所を置く劇団スタジオ・ポラーノから誕生した新しいユニットです。



【お人形けんちゃん】と【腹話術師いずみ】  
けんちゃんの SDGs の旅

保育園や小学校、高齢者施設を回り、地元小金井市でのイベントに多数出演。  
平和が一番。子どもたちが喜んでくれることが何より嬉しい。

【腹話術師いずみ】・【little ★銀河】・【NPO 現代座】コラボレーション公演  
お人形わくわくシアター

3月27日(日) 現代座3階小ホールで「お人形わくわくシアター」が行われます。出演は小金井市在住のプロの腹話術師いずみさんと、劇団「スタジオ・ポラーノ」から生まれた新しいユニット「little ★銀河」です。

「little ★銀河」はまだほやほやの新ユニットですが、腹話術師いずみさんと現代座の東志野香が観劇した時、いずみさんが「生演奏で、紙芝居もお人形も出てきて、楽しい！ コロナで大変な思いをしている子どもたちにぜひ観てもらいたい。一緒に公演できるといいな」と呟いたことからコラボレーションが実現することになりました。

そんな腹話術師いずみさんは被災地に片付けのボランティアに行かれたり、いつも平和とみんなの幸せを願って活動され、数ある作品はいつもみんなに笑顔と幸せの気分を届けてくれます。

さて、お人形けんちゃんの「SDGs の旅」ではどんな出会いがあるでしょう。ここでしか観られないコラボ企画特別バージョンです。ぜひ現代座会館に遊びに来てください。

企画担当

NPO 現代座・東志野香

2022 年 3 月 27 日 (日) 開演時間 ① 11 時 ② 15 時  
(上演時間約 80 分 休憩 10 分あり)

会場：現代座会館 3 階小ホール

参加費：一般 3000 円 中高生 1000 円 小学生以下 500 円

完全予約制 (時間指定自由席) 右記 QR コード (予約フォーム)

・ブログ <https://lig-collab.blog.jp/>



予約フォーム  
QR コード

## 2021年度NPO現代座 活動報告と今後の方針

### ◆『風は故郷へ』の上演

2021年度もコロナ禍の中の1年でしたが、2020年度から延期していた『風は故郷へ』公演を思い切って実現しました。公演日は8月末で丁度コロナの感染拡大と重なりました。

気をつけて稽古をしてはいたのですが、稽古の途中で複数の感染者が出てしまいました。急遽稽古は中止、公演中止も考えましたが、出演メンバーを入れ替え、何とか公演日を3日間に短縮し、様々な感染対策をして皆さんに観ていただくことができました。コロナの中で演劇をすることの難しさを実感しました。

そんな中でも、「誰でもできる朗読教室」や「東志野香さんのヨガ教室」、そして「地域の集い緑町ふれあいサロン」は創意工夫して活動を継続してきました。特に高齢者は閉じこもっていたら駄目になってしまおうとみんなが感じていたようです。

現代座ホールや3階小ホールを使つての稽古や公演も、少し戻ってきて9団体が稽古に使用してくれました。はじめて使う団体もありました。公演も7団体が行いました。(8ページ活動日誌参照)

### ◆会館の土地建物、NPO法人への移動完了

昨年度の大きな出来事は、株式会社現代座からNPO現代座へ土地と建物の寄贈を受けたことです。土地と建物は統一劇場時代に株式会社として登記しまし

た。NPO法人として活動するようになってからは、株式会社到家賃を払う形で処理してきました。

名義上の会館所有者・木村快が高齢になり、法的に木村個人の私的財産として扱われると様々な不都合が起きることになり、株式会社をどうしたらいいかが大きな悩みでした。ワーカーズコープの方達に相談する中で、司法書士さんや不動産鑑定士さんを紹介していただいて、株式会社の資産をNPO法人へ贈与する手続きが完了しました。

これからはよりいっそう、現代座会館を地域の人々や多くの創造者の活動を支える場として活用していくことを考えていきます。

### ◆財政問題 寄付金で乗り越えました

今年度収入の多くは補助金です。「コロナによる緊急事態宣言の影響緩和に係る一時支援金」を60万円、文化庁のコロナ禍に対する充実支援事業(AFF)を600万円いただきました。『風は故郷へ』の公演はこの助成金のおかげでなんとか実現出来たのですが、お金が振り込まれたのは2022年2月で大変時間がかかり、財政困難に陥りました。

そこを支えてくださったのは、会員の皆さんの会費と寄付です。会員403人の会費収入、さらに55人の方から【1,445,122】円のご寄付をいただきました。本当にありがとうございます。

左の活動計算書は東京都に提出するものです。この寄付金の中には株式会社現代座からNPO現代座へ寄贈した土地の代金【28,142,000】円が含まれています。

### ◆2022年度の活動

今年はずまず7月に、インドネシア残留日本兵を扱った木村快作『プリンギン・ホテルにて』を八木澤賢の演出で公演します。(8ページ参照)

次には『出航』をやりたいという声もあがっています。いろいろな人たちが現代座会館に入り込んで、様々なことをやるように、映画の上映会もやっていきたいし、新しい講座も企画したいと考えています。そして創造者たちをつなぐ場にもしていきたい。その第1弾が1面に掲載した『お人形わくわくシアター』です。演劇だけではなく、地域の人たちの協同の場に出るように、試行錯誤を続けていきたいと思っています。(木下美智子)

### ◆語り作品を活用したい(木村快)

コロナ騒動で年配者は家に閉じこもりがちです。劇場は不安な時こそ一緒に生きる道を感じ合う場であるのに残念です。現代座には2004年から、たとえ数人でも必要があればどこへでも出かけて語る『遠い空の下のご郷々ハンセン療養所に生きて』という語り作品があります。短い時間だけど、みなさん一緒に世界に生きた実感を持たれるのです。この経験を生かして新しい作品をいくつか準備したいと思います。3階小ホールなら10人以上集まれば、一緒に語りの世界に身を置く時間が生まれます。

いま、世界は戦争におびえているし、やがて不安な時代が来るかもしれません。時には日常を離れて、一緒に生きる道を感じ合う場が欲しいと思います。

## 2021年度 活動計算書

2021年3月1日から 2022年2月28日まで

特定非営利活動法人 NPO現代座  
(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		1,459,000
2 受取寄付金		29,587,122
3 受取助成金等		
公共団体補助金	6,600,000	
民間助成金	0	6,600,000
4 事業収益		
①地域劇場づくり支援事業収益	2,862,670	
②制作上演事業収益	345,000	
③セミナー事業収益	662,000	
④国際協力事業収益	0	
⑤まちづくり事業収益	0	
⑥子ども健全育成事業収益	0	
⑦会報発行事業収益	0	3,869,670
5 その他収益		
受取利息	11	
雑収益	111,447	111,458
経常収益 計		41,627,250
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	872,000	
(2) その他経費		
制作・準備費	0	
創造・上演費	6,216,814	
交通・通信費	0	
資料・印刷費	34,570	
消耗品費	545,835	
会報・HP経費	599,461	
その他経費 計	7,396,680	
事業費 計		8,268,680
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	470,000	
(2) その他経費		
通信運搬費	163,655	
消耗品費	246,253	
OA経費	50,242	
雑費	279,657	
光熱水道費	972,439	
租税公課	70,000	
家賃	1,000,000	
その他経費 計	2,782,246	
管理費 計		3,252,246
経常費用 計		11,520,926
当期正味財産増減額		30,106,324
前期繰越正味財産額		3,595,018
次期繰越正味財産額		33,701,342

当期において、その他事業は実施していません。

木村ノート◆われらいずこより来たる 第2部  
 ⑨ 1964年 ユートピアの栄光と破綻  
 木村 快

前号までの記述

【第1部】日本新劇史・資料からのまとめ

①・レポート81号 1950年、新劇運動の分裂  
 戦時中、弾圧を受けた新協劇団は敗戦後復活。  
 ソ連支持派と中国支持派の対立で1950年に分  
 裂。中間派は「ヴェリテ・せるくる」を設立。

②・レポート82号 1951年、新制作座の出發  
 ヴェリテ・せるくるは半年で解散。真山美保、草  
 村公宣、榎村浩吉で新制作座としてスタート。

③・レポート83号 1954年、庶民の新劇を標榜  
 真山美保の『泥かぶら』、炭鉱労働者と旅の一座の  
 交流を描いた『馬五郎一座顛末記』が注目を集め、  
 労働組合関係者の支持で全国公演が始まる。

【第2部】活動に参加した木村快の視点から

④・レポート84号 1959年① 特別研究所開設

⑤・レポート85号 1959年② 巡演活動の実態

『馬五郎一座顛末記』で北海道の炭鉱地帯を巡演。

これは日本新劇史上初の、職業化への道筋だった。

⑥・レポート86号 1960年 安保闘争。

新劇人デモ行進ではいつも中心を担った。平和集  
 会では国際的要人からも注目が集まり、インドネ  
 シア共和国から招請されることになった。

⑦・レポート87号 1963年①

インドネシア訪問日本文化使節団の公演記録

⑧・レポート88号 1963年②

ユートピア・新制作座文化センター設立

◆1964年の社会状況

1964年、日本は国際通貨基金（IMF）8条国  
 に移行し、経済的先進国となった。カラーテレビが普  
 及し、新幹線が走り、首都高速道路が建設され、大き  
 なホテルが建てられ、東京の街はオリンピックに向かっ  
 てまっしぐらだった。そんな時代だからこそ、ユート  
 ピアと騒がれた新制作座文化センターが出来上がった  
 とも言える。



前号で述べたように、  
 家族的集団として持ち  
 味を発揮していた新制  
 作座は突然巨大化して  
 混乱し、身動きの取れ  
 ない状態に追い込まれ  
 ていた。オリンピック  
 騒ぎで日本中が浮かれ  
 ていた裏側で、新制作  
 座では70人以上の劇団  
 員・従業員の強制解雇  
 事件が展開されていた。

◆不安を抱えての1964年

前号で紹介した1963年夏の披露パーティ事件や、  
 密かに不満を伝え合うグンビラ・メモ騒動は幹部た  
 ちに深刻な影響を与えた。感覚的な相互信頼で成り立  
 つ劇場集団であるから、従来型の活動が不可能になる  
 危険をはらんでいたし、生活丸抱えの企業集団でもあ  
 るわけだから、経営上の大問題だった。

「インドネシア帰国公演」は1964年前半も引き続  
 き長野、愛知、大阪、広島、北九州と全国巡演の旅を

つづけた。前年度はそこそこ観客を集められたけれど、  
 年を越すとなぜか観客数が低下してきた。そして舞台  
 への批判が出るようになった。特に労働組合の活動家  
 からの批判が多く、それはインドネシア独立革命を題  
 材にしながら「戦い」とか「勝利」という言葉が意識  
 的に外されて、曖昧な表現になっているためだった。  
 本部では財政的逼迫を心配していた。

幹事会ではSグループと呼ばれる共産党系の若者た  
 ちが劇団外に変な情報を流しているのではないかと  
 疑っていた。

◆破綻へ向かって

全国巡演を終えた7月、帰国公演班以外のフェスティ  
 バル班、演劇班も巡演を終え、センターはごった返し  
 ていた。

幹事会は早速Sグループのメンバーを呼び集め、ま  
 ずグンビラ・メモの問題から問いただしはじめた。  
 しかしSグループはもともと1962年に真山美保の  
 呼びかけで生まれたグループであり、真山芸術への協  
 力を大前提としていたから、彼らもこれには困惑して  
 いた。グンビラなどと言っインドネシア語が関係し  
 ているのだから、帰国公演班の関係者ではないかとい  
 うことになった。

そこで1962年末に「社会教育誌」の勉強会を批  
 判され、以後誰とも口をきかなくなった木村快に疑い  
 の目が向いた。しかし木村はいつも人の後ろにいて、  
 積極的に人を動かすタイプでないことはみんな知って  
 いた。ただ、若者の間では木村に同情する者が多かつ  
 たから、調べてみることになった。

帰国公演班にはSグループメンバーがいなかったた

め、何人かがそれぞれ帰国公演班のメンバーと話し合ってみた。それによると、木村はアコーディオン伴奏者だったので帰国公演が終わるまで退団できなかったが、全員作業である杉並からの本部移転作業が終わったら退団するつもりらしいと言った。

#### ◆幹部との話し合い

10月中旬、Sグループが仲立ちになり、劇団幹部の木村氏が木村の心情を聞いた。どうやら幹部は木村を直属のスタッフに起用し、若者たちの混乱を収めたかったようだった。しかし、木村は劇団退団の意思が固く、木村氏もそれならできるだけ穏やかに退団して貰おうということで合意し、幹部会で検討するか



◆最後の舞台 木村にとっては1964年前半期のインドネシア帰国公演が最後の舞台になった。

(最後部左寄りのアコーディオン奏者・木村快)

ら数日間待つようにと言われた。

すると数日おいて真山美保からぜひ話したいと呼び出された。真山美保は前年の騒動以来、みんなの前に顔を見せていなかったから、久しぶりの対面だった。あれ以来、煩悶の日が続いていたのだろうか、かつての颯爽とした姿は消え、幹事会にも顔を出していないようで、すっかりやつれていた。そして話をしているもなかなか焦点が定まらない。どうやら幹事会の中で指示を出している様子はなさそうだった。

彼女は「あなたには才能がある。なんとか頑張ってみないか」と言ってくれたが、それが何を意味しているのかよく分からないまま、別れてしまった。

真山美保抜きで幹事会では何かかなりもめているらしく、みな厳しい表情をしていた。

#### ◆突如、強制退団が始まる

幹事会からの指示を待っていたが、11月1日、突然、中堅幹部の一団がやってきて、何も言わず、木村だけでなく、他にも追い出したい劇団員がいたらしく、計8人の私物を勝手に荷造りし、センターの敷地外に放り出してしまった。

「こんな人権を無視するようなことをしてもいいのか」と抗議すると、中堅幹部の一人が「ここは劇団の施設じゃない。正式には労働者の交流施設だ。俺たちは命じられたことを実行するだけだ」と言い放った。たしかに新制作座は「財団法人・新制作座文化センター」の施設の一部を宿舎として利用する形をとっていた。

何が何だか分からないまま、追い出された8人は劇団の動きを見守るため、杉並区永福町に家を借り、共同生活をはじめた。

すると12月22日、新しく66人のメンバーが呼び出され、「宿舎を退去して、センターの外で下宿するように」と指示された。当時八王子市元八王子地区はまだ空き

家が多く、大騒ぎで転居をはじめたとの連絡が永福町に入る。そして12月24日朝、その66人には予告無しに強制退団が言い渡された。未払い分の給与は支給されたが、退職金は支給されなかった。そのため、給与の前借りをしていた者たちは無一文で放り出されることになった。

#### ◆舞台芸術家組合から映演総連へ

最初の8人と併せて計74人の顔ぶれを見ると真山芸術の信奉者だったはずのSグループのメンバーも全員含まれていたし、グンビラ・メモで疑われたのか、何も分からない若いメンバーも多数含まれていた。

木村はたまたま文芸部時代に本部事務所に入っていたため、新制作座が労働金庫を利用するため、形だけの労働組合をつくっていることを知っていた。そこで新制作座労働組の上部組織に当たる舞台芸術家組合に、この場合どうしたらいいかと問い合わせしてみた。

驚いた舞台芸術家組合はさらに映演総連(映画演劇労組総連合)に報告。そして映演総連は劇団側に「せめてわずかでも退職金を支給して大袈裟な問題にしないで欲しい」と要請してくれたが、劇団の担当者「うちは芸術団体ですから関係ありません」と拒否したらしい。このため舞台芸術家組合は憤慨し、関係諸団体に訴え、何とか対処するから待機するようにと伝えてきた。文化センターは多くの労働組合の支援で成立したわけだから、まず労組関係者の間で問題になった。年末であり、ともかく年明けまではみんな頑張り

うと、「共同生活体制」をつくって待機していた。

#### ◆新制作座集団の構成

新制作座の劇団員構成は5年以上の経歴者を（劇団員）とし、総会の議決権を持っている。以下、3年以上を（準劇団員）、3年未満は（研究生）とクラス分けしていた。しかし、移動公演を主体とする職業劇団であるため、全員一体で働き、俳優・スタッフの区別、先輩後輩の上下関係もなく、この点が演劇運動における新しい特徴として注目されていた。

解雇された1964年12月時点の総員は167人。被解雇者74人を構成別に示すと次のようになる。

構成員数	被解雇者数
劇団員 58人	(9人)
準劇団員 29人	(17人)
研究生 66人	(45人)
嘱託 8人	(2人)
職員 6人	(1人)
【計】 167人	(74人)

#### ◆文化センターの背後に潜む問題

劇団員を家族的な輪の中で育ててきた新制作座が、こんな乱暴なことをするということは信じられなかった。何かかわれわれの目の届かないところで、大きな問題が持ち上がっているのではないかと考えられた。

1961年暮れの総会で文化センター構想が発表されたときは、みんな歓声を上げたものだが、「財団法人・新制作座文化センター」は政府の福祉基金からの融資で建設された労働者のための文化交流センターだということに気がついた。

当時の労働運動は全体が連合体としてまとまっていたが、内部では反政府派労組と政府寄り労組との対立が激しくなっていた。文化センターの実現は政府ルートを動かせる政府寄り労組の力が大きかったはずだ。新制作座の一存では動きがとれなかったのかもしれない。政府寄り労組が内部に存在する左派系の組合員を排除するとき、「信用できる者以外は全て切れ」といった暴力的な方法をとっていることが新聞で話題になっていた。

だが、新制作座がその力に屈したのだとすると、それは新制作座の終結を意味していた。

#### ◆生きた劇場が消えてゆく

処分者に対する罪状は、秘密グループをつくったという批判だった。労組関係者につつかれ、真山抜ききの幹事会が慌てふためいて、前後を考えず強行した結果だと思われる。

新制作座を育てたのは人々の生活感を共鳴させる生きた劇場があつてのことで、真山美保はそこに演劇の本質を見いだし、独自の道を求めたはずである。いかなる理由であれ、新制作座における相互信頼感が失われるならば、あの熱気あふれる劇場は存在しなくなる。何よりもまず相互信頼の成り立つ範囲を越えるべきではなかったのだ。

#### ◆中堅幹部に抜けていた視点

木村の勉強会に助言したことを批判され、退団したSグループリーダーのYさん。劇団の巨大化に耐えられず退団した事務責任者のSさん。インドネシアから帰国すると同時に退団した中心俳優のN君。彼らはそれ

ぞれ優れた能力を持ち、劇団の発展期を支え、みんなから信頼されていた。逆に不純分子追い出しの先頭に立ったMさんも、創立期からの音楽リーダーであり現場のまとめ役だった。不純分子を追い出せば、かつての新制作座が甦ると信じていたのだろう。

この事件は、中堅幹部に必要な力とは目に見える力だけでなく、相互信頼という目に見えない関係を築く力だということを物語っている。

#### ◆人間を忘れた近代化

かつての新制作座なら一人一人を呼んで、郷里に帰る旅費でも渡してやれば、不満を持ちながらもそれぞれ消えていっただろう。だが、ここでは逆に弱者を怒りで結束させ、騒ぎを大袈裟にしてしまった。

これは戦争が終わり、やっと豊かな1960年代を迎えた日本人の歴史的限界だったかもしれない。近代化による巨大システムの構築は、人間性を失わせる危険をはらんでいるということ想像できなかったのだ。

#### ◆映演総連の決断・以下次号

年が明けると、映演総連では真剣に対応しようという新しい新制作座に対して「新制作座不当解雇反対協議団」の結成を考え始める。このとき協議団に加わらない自主退団者は5人で、69人が争議に加わった。

そして1月10日付けの『東京新聞』が事件を報道したことから新聞・週刊誌が一斉に騒ぎ立て、社会問題となっていく……。

これについては次号から【第3部】として紹介をづけたい。

## NPO現代座 誰でもできる朗読教室

講師 長谷川葉月

2月23日(水)と24日(木)の2日間にわたり「誰でもできる朗読教室」2021年9月期生発表会が現代座会館3階小ホールでありました。昨年9月から今年2月までの6ヶ月の講座を無事に終えて、17名が受講の成果を発表してくれました。なかには、数年間、継続受講をしてくれている人もいます。

新型コロナウイルス感染症が広まってからちよど2年になりますが、マスクをして声を出す息苦しさを乗り越えてずっと通い続けてくれた参加者の皆さんには

感謝しかありません。また、今回は2名の初参加の方も立派に舞台上で朗読してくれました。

今期も本番のときだけは、マスクなしで朗読をしました。いつもは顔の殆どがマスクに隠れて見えない状態ですので、皆さんの顔がはつきり見れることがとても新鮮！ 作品の内容もよく分かり、私たちの体全体がどれほど雄弁に作品を語るのかを感じました。

今回も会場の大きさを考えるとお客様を呼ぶことができず発表会は無観客でしたが、代わりに全員客席に座って、ほかの作品をしつかり聞いてもらいました。

本番の朗読を聞けば、2週間前のリハーサル以降、仲間がどれほど練習を積んだかよく分かります。それで「ちよとと、あなたあの時と別人の朗読よ〜」「今

日は話の内容がすごい伝わってきたわ！」という会話が休憩中に飛び交って、思わず笑みがこぼれました。

懇親会で話を聞くと、「発表会の作品を初めて自分で選べたことがとても嬉しい」「読書しているときよりも、自分で声を出しているほうが、深く内容が分かる気がする。とにかく書いてあることを声に出して読むことが楽しい」「こんなに何度も作品を読んだことがなかったのですが、読むたびに新たな発見があったり、作家の意図が分かってきたり、一つの作品を深掘りする貴重な経験でした」「口紅を久しぶりに塗ったら、なんか気分が晴れ晴れした」「年配の方があんなに迫力のある驚くような声を出すなんて…、私も頑張ろうと思えた」など、いろいろな感想がありました。

長年ずっと発表会を支えてくれているスタッフからは「みんな成長したね〜」というありがたコメントも。本場に、舞台セットも何も無い空間に、たった一人、本を持って出ていって、約15分間、その場を立派に務めてみんなに幻を見せてくれることは凄いことで、私は感動するばかりでした。

コロナ前と比べるとレッスンの形態も大きく変わりましたが、少し窮屈な思いをしながらの講座かもしれないですが、それでも声を出すこと、自分の声で人に感動を与える素晴らしさを、多くの人に味わってほしいです。



(後列左より) 本田典子、小野寺優子、環笑子、井上照美、尾花はるみ、手塚修  
(前列左より) 井上尚子、江花幸子、長谷川葉月(講師)、高嶋悦代、佐藤忍



(後列左より) 早乙女裕子、田中ヒロミ、古明地節子、石川秀樹  
(前列左より) 関口知子、長谷川葉月(講師)、浜崎小枝子、今井治江

### 受講生募集 誰でもできる朗読教室第2022年4月期

**2022年4月開講** 基礎訓練から舞台発表までの12回講座  
開講期間/2022年4月~9月

**水曜教室** (原則 第2週・第4週、9月のみ第1週・第3週)

①昼クラス 13:30~16:00

②夜クラス 18:00~20:30

**木曜教室** (原則 第2週・第4週)

③昼クラス 13:30~16:00

④夜クラス 18:00~20:30

定員/各クラス6名程度 料金/受講料 20,000円

お問い合わせ(現代座) TEL 042-381-5165 FAX 042-381-6987

4クラス同じ内容  
で初心者から  
学べる講座です

## 7月公演予定 『プリンギン・ホテルにて』

木村快の朗読構成劇「プリンギン・ホテルにて」を公演する予定で、準備を始めました。

インドネシア最北端のスラウェシ島の、小さな町にある小さなホテルを舞台にして展開される話です。

コロナの状況によって変更も考えられますが、7月7日～11日、八木澤賢の演出で公演予定です。

\*\*\*\*\*

木村は1963年にインドネシア訪問日本文化使節団の一員として訪れたとき、残留元日本兵と呼ばれる人とよく出会いました。

インドネシアは東南アジア中心部の300の群島、50の言語を話す部族で構成されており、永くイギリス、オランダの植民地として翻弄された独特な世界です。

第二次大戦中は日本軍が占領し、日本敗戦後は諸民族が結集してイギリス・オランダの占領軍と3年間にわたって独立戦争を戦い抜き、1949年にやっと国際的に承認された珍しい国です。

独立戦争には2000人以上の残留日本兵が参加し、多くの人が戦死しています。なぜ帰国せず独立戦争に参加したのか。

1973年4月と10月に、改め

◆インドネシア最北端のスラウェシ島・マナド市。海の彼方、遠くにかすむ陸地はフィリピン諸島。



て残留日本兵について取材したとき、スラウェシ島の僻地でシニアボランティアとして医療に従事する高齢の日本人医師と出逢いました。戦時中は陸軍軍医として従軍したが負傷して生き残り、戦後は外科医として働きながら、50代になつてからわざわざインドネシア僻地へ渡られた方です。なぜとの問いに「日本人としての心の傷は消えないが、これが人生を全うできる道だと思う」と語られました。独立戦争に参加した動機は人によつて様々ですが、日本軍の一員であつた自分の責任と考える人もかなりいたようです。インドネシア独立戦争に参加した日本兵の人生に焦点を絞ってみました。

現代座会館 12月～2月 活動日誌

### 【本部事務局】

12月7日 葛谷夫妻と新快塾  
21日 「現代座レポート88号」発送作業  
22日 「川崎平右衛門研究会」会議参加小平市  
23日 NPO現代座会議  
29日 葛谷夫妻来訪  
30日 岡田京子さん来訪  
2月20日 NPO現代座会議  
第3木曜日「緑町ふれあいサロン」

### 【現代座ホール】

11月26～12月5日 「ふるきやら」稽古  
12月8～12日 劇団e3公演  
13～19日 演劇ユニット東京ナイフ公演  
20～26日 「ハトノス」公演  
2月26、27日 「劇団ときのこえ」公演

### 【三階小ホール】

12月4、5、11、12、18日 「ハトノス」稽古  
19日 「ゲテ演隊Kユニット」稽古  
24～26日 「リトル銀河」稽古・配信  
1月14～16日 「演劇サークル夢さしの」公演  
2月6日 「ゲテ演隊Kユニット」稽古  
16日 飯村先生「夢風船」  
23、24日 朗読教室発表会  
隔水曜・木曜日 朗読教室  
毎火曜・木曜日 ヨガ教室

### 【二階サロン】

12月23日 岡田京子塾  
1月19日 岡田京子塾  
2月6日 緑町第2町会役員会  
毎水曜日 熟年パソコンサークル  
隔木曜日 可也熟年講座

## NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

## ★年会費（現代座レポート購読料を含む）

一般会員 3,000円  
協賛会員 10,000円（1口以上）  
郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座